

小学校第 6 学年

国 語

注 意

- 1 先生の合図があるまで、中を開かないでください。
- 2 調査問題は、1 ページから 21 ページまであります。問題用紙のあいている場所は、下書きや計算などに使用してもかまいません。
- 3 解答用紙は、両面に解答らんがあります。解答は、全て解答用紙に書きましょう。
- 4 解答は、HB または B の黒えんぴつ（シャープペンシルも可）を使い、こく、はつきりと書きましょう。また、消すときは消しゴムできれいに消しましょう。
- 5 解答時間は、45 分間です。解答が早く終わったら、よく見直しましょう。
- 6 机つくえの上の「個人番号シール票」をよく見て、解答用紙に、組、出席番号、男女、個人番号をまちがいのないように書き、個人番号シールを 1 枚まいはりましょう。

1

高橋さんの学級では、生活の中で気になったことを調べ、友達に報告することになりました。高橋さんは、公衆電話こうしゅうでんわについて調べています。次は、高橋さんが書いている【報告する文章】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【報告する文章】

公衆電話について

高橋 めぐみ

1 はじめに

先日外出したときに、家に電話をかけようと近くの店に行くと、あつたはずの公衆電話がなくなっていて、こまってしまいました。また、よく行く公園の公衆電話も、いつの間にかなくなっていました。わたしは、公衆電話の数が減っているのではないかと思いました。町の公衆電話の数を調べてみることにしました。それをまとめたものが〈資料1〉です。平成二十年度から二十九年度までの十年間で、約半分にまで減っていることが分かりました。そこで、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうのかどうか調べてみることにしました。

2 調査の内容と結果

(1) 公衆電話はどのようなときに必要なのか

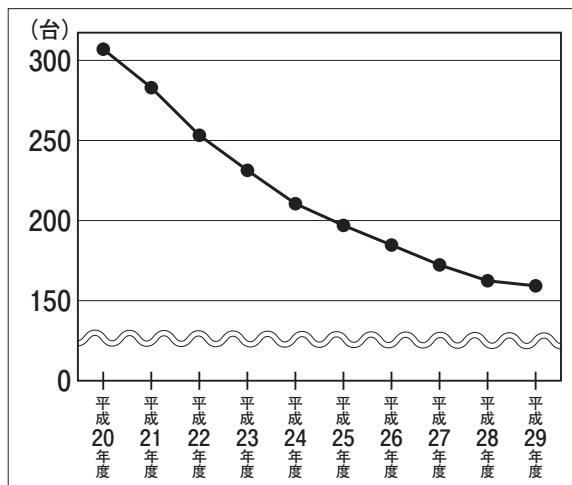
多くの人がかきたい電話を持つ中で、公衆電話が必要とされているのかどうかを調べてみることにしました。

そこで、地いきの人三十人を調査の「アたいしょう」として、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。その理由をまとめたものが〈資料2〉です。「けいたい電話をわすれたときに必要」「けいたい電話の電池が切れたときに必要」などの回答がありました。

このことから、公衆電話は、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされているということが分かりました。

〈資料1〉

公衆電話設置台数の移り変わり



〈資料2〉

公衆電話が必要な理由のまとめ(複数回答)

けいたい電話をわすれたときに必要	22人
けいたい電話の電池が切れたときに必要	12人
けいたい電話の使用が禁止されている場所にいるときに必要	5人
けいたい電話の電波がとどかない場所にいるときに必要	4人
けいたい電話や家の電話がつながりにくいときに必要	3人
その他	5人



(2) 公衆電話にはどのような使い方や持ちようがあるのか

公衆電話について書かれた資料を調べてみると、公衆電話には、次のような使い方や持ちようがありました。

・ 警察署（110番）や消防署（119番）には、硬貨やテレホンカードがなくても通報することができます。

・ 停電のときでも、硬貨を使って通話をすることができます。

・ 電話が混み合っているときでも、優先的につながりやすい。

このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができるということが分かりました。

(3) 公衆電話はどのような場所にあるのか

公衆電話を必要なときに使うことができるようにするためには、どのような場所に設置されているのかを前もって知っておくことが大切だと思ったので、わたしは、公衆電話の設置場所を確かめてみることにしました。実際に町を歩いてまとめたものが〈資料3〉です。

この資料から、公衆電話は、主に病院や学校、駅などの多くの人が集まる場所にあるということが分かりました。

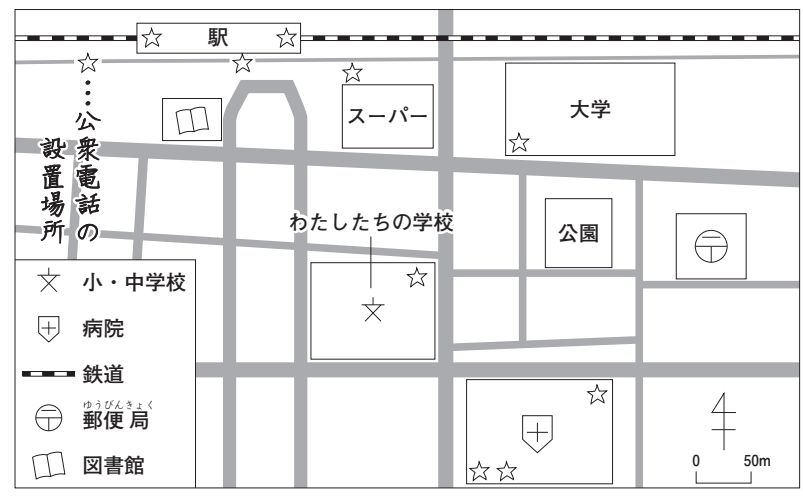
3 調査の結果をもとに考えたこと

調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうわけではないと考えました。なぜなら、

また、公衆電話を使いたいときには、多くの人が集まる場所へ行けば見つけやすいのではないかとすることも考えました。

今回の調査を通して知ったことを、学級の友達にイカざらず多くの友達に伝え、公衆電話についてウかんしんをもってもらいたいと思います。

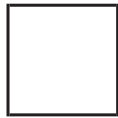
〈資料3〉 公衆電話の設置場所を示した地図



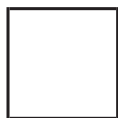
一 高橋さんは、【報告する文章】で〈資料2〉と〈資料3〉を、それぞれどのような目的で用いていますか。その説明として最も適切なものを、次の1から5までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 現在と過去の様子を並べて示し、二つのちがいを伝えるため。
- 2 内容ごとに分類して示し、大まかな特ちょうを伝えるため。
- 3 年度ごとの数値をグラフで示し、移り変わりを伝えるため。
- 4 記号や印などを使って示し、実際の位置を伝えるため。
- 5 説明したい場所やものを写真で示し、実際の様子を伝えるため。

〈資料2〉……



〈資料3〉……



※解答は、解答用紙に書きましよう。

二 高橋さんは、「(2) 公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」の中で、公衆電話の使い方や特ちょうについて、くふうして書いています。そのくふうとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 情報を整理して伝えるために、ことばを分けて並べて書いている。
- 2 自分の考えを強調するために、同じ言葉をくり返して書いている。
- 3 自分の考えのもととなる事実を示すために、図や表を用いて書いている。
- 4 相手の理解を助けるために、使い方の手順に従^{したが}って書いている。

四 高橋さんは、【報告する文章】を書き終え、読み返しています。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

(1) 高橋さんは、習っている漢字がひらがなになっているところがあることに気がつき、書き直すことにしました。【報告する文章】の——部アからウのひらがなを、漢字でていねいに書きましよう。

そこで、地いきの人三十人を調査の ア たいし ウ として、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。

ア

今回の調査を通して知ったことを、学級の友達に イ か ウ ぎ エ ぎらず多くの友達に伝え、公衆電話について ウ かん エ しん オ をもってもらいたいと思います。

イ

(らず)

ウ

※解答は、解答用紙に書きましよう。

(2) 高橋さんは、読み手に伝わりやすくするために、【報告する文章】の [] の文を二つの文に分けて書き直すことにしました。文と文をつなぐ言葉には「そこで」を使います。書き直した一文目の終わりの五文字と、二文目の「そこで」に続く五文字を書きましよう。なお、読点（、）も字数にふくみます。

公衆電話を必要なときに使うことができるようにするためには、どのような場所に設置されているのかを前もって知っておくことが大切だと思ったので、わたしは、公衆電話の設置場所を確かめてみることにしました。

[] 。そこで、 []

※解答は、解答用紙に書きましよう。

2

宮原さんの学級では、身近な食べ物について疑問に思ったことを調べ、友達と紹介し合うことにしました。次は、宮原さんの【ノートの一部】と宮原さんが選んだ【資料】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【ノートの一部】

食べ物の保存ほぞんについて

調べようと思ったきっかけ

春休みに、祖母から梅干しうめぼしをもらったが、それが十年前に作られたものだを知りおどろいた。十年もたつのになぜ食べられるのかと聞くと、塩づけにしたり干ほしたりしているからだということだった。昔の人はくふうして食べ物を保存してきたのだと、祖母は教えてくれた。

疑問に思ったこと

- ① なぜ食べ物を塩づけにしたり干したりすると保存できるのか。
- ② なぜ昔の人は、食べ物を保存する方法を考えなければならなかったのか。

調べて分かったこと

- ① 食べ物を塩づけにしたり干したりすると保存できる理由は、
ア
- ② 昔の人が食べ物を保存する方法を考えなければならなかった理由は、
イ



宮原さん

食べ物を保存する

◆ 食べ物は生命の源^{みなもと}

生き物は、食べ物がなければ生きていくことができません。食べ物を安定して確保することは、生きる上で欠かせないことです。

例えば、リスは秋になるとドングリを土にうめ、食料をたくわえます。クマはたくさんの食べ物を食べ、体に栄養をたくわえて冬眠^{とうみん}に入ります。動物たちは、このようにして生きぬいているのです。

わたしたち人間は、食べ物を保存する技術がなかったころは、いつでもおなかを満たすことができるというわけではありませんでした。季節や天候などにより、農作物や肉、魚などが手に入らないことがあったからです。また、運よく大量の食べ物が手に入ったとしても、そのままにしておく、くさって食べられなくなってしまうこともありました。そのため、人々は昔から様々な方法で食べ物の保存を試みてきました。失敗をくり返しながらよりよい保存方法を獲得^{かくとく}し、次の世代へつないできたのです。

◆ 保存のふしぎ

食べ物がくさる主な原因は、食べ物をくさらせる細菌^{さいきん}が増えることです。その細菌は食べ物の水分を利用して増えます。そのため、水分が少なくなれば細菌は増えにくくなり、食べ物はくさりにくくなります。

では、水分を少なくするにはどのようにしたらよいのでしょうか。例えば、塩^{しとろ}や砂糖を使うという方法があります。塩や砂糖には水分^{すいぶん}を吸い出すはたらきがあるので、塩や砂糖を使ってつけることで水分を少なくすることができるのです。また、かんそうさせるという方法もあります。日光や風に当てて干すことで、水分^{すいぶん}を蒸発^{じょうぱつ}させることができます。

これらの方法を使った保存食には次のようなものがあります。

塩を使う

- ・ 山菜の塩づけ
- ・ 豚肉^{ぶたにく}の塩づけ
- ・ 魚の塩づけ



砂糖を使う

- ・ 果物の砂糖づけ
- ・ ジャム



かんそうさせる

- ・ 切り干し大根
- ・ かんぴょう
- ・ こんぶ



一 宮原さんは、【資料】を読み、ノートにまとめています。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

(1) 【ノートの一部】の ア には、疑問に思ったこと の①の答えになる内容が入ります。

その内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 水分が多くなり、食べ物がくさりやすくなるから。
- 2 細菌が増え、水分を蒸発させることができるから。
- 3 水分が少なくなり、細菌が増えにくくなるから。
- 4 細菌が減り、水分を増やすことができるから。

【目次の一部】

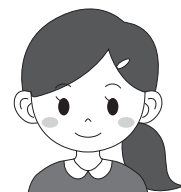
第2章 梅干し

- 梅干しはどこからきたのか … 40ページ **1**
 - ・梅干しの起源^{きげん}
- はじめてでも簡単^{かんたん}!おうちで梅干し … 55ページ **2**
 - ・梅と塩、道具の選び方
 - ・作り方の手順とポイント
- 梅干しの活用術 … 67ページ **3**
 - ・いわしの梅煮^{うめに}
 - ・わかめと梅干しのスープ
- 梅干しの豆知識 … 77ページ **4**
 - ・故事とことわざ

梅干しを作るには、塩はどのくらい必要で、いつ入れたらいいのかな。

【知りたいこと】

二 宮原さんは、食べ物の保存について調べたあと、自分でも梅干しを作ろうと思いい、必要な情報が書かれていそうな本を選びました。次は、【知りたいこと】と本の【目次の一部】です。宮原さんが読むページとして最も適切なものを、あとの**1**から**4**までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。



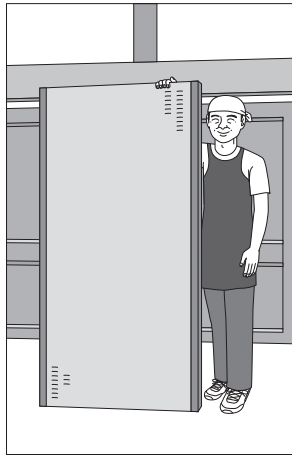
宮原さん

岸さんは、町の広報誌に取り上げられていた畳職人の大谷さんを、学級の友達に紹介するために、大谷さんにインタビューをすることにしました。次は、【広報誌の記事】、【直接聞いてみたいこと】、【インタビューの様子】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【広報誌の記事】

店主の大谷進さんは、十八歳のころに地元で畳店を営む親方のもとへ弟子入りし、三十歳で自分の店をもった。代々受け継がれてきた畳作りの伝統の技を五十年間守り続けている。

部屋の床にすき間も段差もなくぴたりとおさまる畳を作らせたら、大谷さんの右に出る者がいない。通常、部屋に畳をおさめるときにはわずかな段差などが出るため、その場で調整することが多い。しかし、大谷さんの手にかかれば、そのような調整を一切せずにぴたりとおさめることができる。



大谷さんの仕上げた畳

「私にとって、畳はとても魅力的なものです。だからこそ、五十年間も職人を続けることができたのです」と大谷さんは話す。

【直接聞いてみたいこと】

・大谷さんはどのような思いや考えをもって、たたみ職人を五十年間続けてきたのだろうか。

・大谷さんが話しているたたみのみりよくとは何だろうか。

【インタビューの様子】

岸さん 大谷さんが達人として紹介されている、町の広報誌の記事を読みました。今日は、大谷さんの仕事への思いや考えなどをお聞きしたいと思います。よろしくお願ひします。

大谷さん こちらこそ、よろしくお願ひします。

岸さん では、早速ですが、広報誌で大谷さんは、「私にとって、たみ畳はとでもみりよくてきなものです」とおっしゃっていましたよね。どのようなところにみりよくがあると思われますか。

大谷さん 私の店の畳について言えば、全いってんものて一点物だということです。私は、機械を使わずに、細部までくふうして一枚いちまいずつ手作業で仕上げています。ですから、完成した畳は同じように見えても、それぞれに個性があるのです。そこが私にとっての一番のみりよくですかね。

岸さん そうなのですね。それはつまり、

ア

大谷さん そうですね。部屋の大きさに合わせたり、お客様の希望や要望に応えたりするのは、職人としての腕うでの見せどころですからね。

岸さん 職人としての腕をみがぐために、どのようなことを親方から教わったのですか。

大谷さん 親方から直接教わったことはほとんどありません。

岸さん では、どのようにして腕をみがいたのですか。

大谷さん 畳を作る技術やお客様への接し方は、とにかく親方の仕事ぶりをよく見ていました。

岸さん 大谷さんは、親方の姿をよく見て技術や接し方を身につけたのですね。

大谷さん いやいや、見るだけでは身につけられません。「習うより慣れよ」ということわざにもあるとおり、実際に自分でやってみることを何度もくり返すのです。私はとても不器用なので大変さはありましたが、何とか親方のようになりたいと思いながら、修業をしていました。

岸さん そのような思いをもっていたのですね。大谷さんは、他に、どのような思いや考えをもって、五十年間仕事を続けてきたのですか。

大谷さん 思いや考えですか。なかなか難しい質問ですね。

岸さん すみません。では、五十年間仕事を続けてきた中で大切にしてきたことや心構えはありますか。

大谷さん そうですね。五十年も職人をしていますが、いまだに完ぺきだと思える仕上がりはありません。だからこそ、自分が一人前になったと思わず、次こそはもっとよいものを作ろうと挑戦し続けるのです。これが、ずっと大切にしてきたことですかね。

岸さん お話を聞いて、大谷さんの仕事への思いや考えが分かりました。特に、

イ

またぜひお話を聞かせてください。今日は本当にありがとうございました。

一 【インタビューの様子】の ア で、岸さんは、自分の理解が正しいかどうかを確認かくにんしようと思いい、質問をしています。その質問として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 十八歳から五十年間も、畳職人という仕事を続けることができたということでしょうか。
- 2 機械を使って一度にたくさん作るので、より多くの人が使うことができるということでしょうか。
- 3 最近作られた畳の中で、特にくふうして仕上げたものにはどのようなものがあるのでしょうか。
- 4 細部までいいねいに手作業で作るので、一枚も同じものはないということでしょうか。

二 【インタビューの様子】の で、岸さんは、――部のようにくふうして質問をしています。そのくふうとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 相手の思いをさらに引き出すために、相手がくり返し発言した言葉を用いながら質問をしている。
- 2 相手に質問をする理由を理解してもらえようように、インタビューの目的を伝えてから質問をしている。
- 3 相手が答えやすいように、自分が知りたいことについて言葉をかえてもう一度質問をしている。
- 4 相手の話の中に分からない言葉があったため、その言葉の意味を確かめる質問をしている。

三 岸さんは、インタビューの最後に、大谷さんの仕事への思いや考えに着目して、特に心に残ったことを伝えようとしています。【インタビューの様子】の **イ** に入る内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- 【インタビューの様子】の大谷さんの発言から、言葉や文を取り上げて書くこと。
- インタビューとしてふさわしい言葉づかいにすること。
- 書き出しの言葉に続けて、三十字以上、六十字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

特 に、◆		
30字		
60字		

四 岸さんは、「インタビューの様子」の中の「習うより慣れよ」ということわざの意味を調べて、ノートにまとめています。次の【ノートの一部】の **ウ** に入る例として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

【ノートの一部】

習うより慣れよ

(意味)

ものごとは、人に教わるよりも、自分で実際にやってみるほうがよく身につくということ。

(使い方の例)

ウ

- 1 何度も乗って練習すれば、自転車にうまく乗れるようになるよ。習うより慣れよだよ。
- 2 どんな所でも、住み慣れればよい所だと思うようになるよ。習うより慣れよだよ。
- 3 新しいくつは最初のはきごころが悪いけれど、数日はくと足になじむよ。習うより慣れよだよ。
- 4 一生けん命がんばったから、あれこれ考えず気長に結果を待とうよ。習うより慣れよだよ。

正答（例）【小学校国語】

① 一 〈資料2〉：2

二 〈資料3〉：4

三 1

（例）（なぜなら、）公しゆう電話は、主にけいたい電話を使うことができないうきに必要とされていたり、きん急のときにも使うことができます。（68字）

四（1）ア 対象

イ 限（らず）

ウ 関心

四（2） 思いました（。そこで、）わたしは、

② 一（1） 3

（例） 季節や天候により、食べ物が入らないことや、手に入ったとしても、そのままにしておくと、くさって食べられなくなってしまふこともあったから。（69字）

二 2

③ 一 4

二 3

（例）（特に、）自分が一人前になったと思わず、次こそはもっとよいものを作ろうと、ちょう戦し続けているところが心に残りました。（57字）

四 1